

お客様の安心のために

～半導体市場における製品供給責任～

株式会社ディスコ

取締役サポート本部長 田村 隆夫

BCPワーキンググループ 早崎 力

もくじ

- BCPへのとりくみ経緯
- ディスコのBCPポリシー
- 情報公開について
- 事業継続ガイドラインの利用
- BCP展開のポイント
 - 災害に強い従業員体質をつくる
 - 社内推進のためのポイント
 - 難しい点と悩み
- 今後にむけて

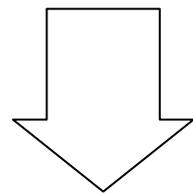


BCPへのとりくみ経緯

- 2003年 顧客よりSSQA要望
- 2003年9月 災害復旧プロジェクト発足
- 2003年10月 災害マネジメントシステム開始
- 2004年3月 BCPコミッティ発足
- 2004年8月 災害対策要員結成
- 2004年10月 BCPホームページ公開
- 2005年1月 BCPを年度経営方針に

ディスコが置かれた市場と顧客要求

- 米国半導体メーカー
 - 9.11同時多発テロを契機とした米半導体メーカーを中心とした危機管理の高まり



BCP要求

SSQA

(Standardized Supplier Quality Assessment)

- 半導体製造装置市場

ディスコ

・製造装置

・製造装置用工具(消耗品)

ディスコのBCPポリシー

- まず地震から。経営資源を集中投資する。

- お客様に安心して取り引きしていただける企業にする
- 私たち従業員が安心して働ける企業にする

キーワードは「安心」

ディスコのBCPポリシー

1. 従業員の安全確保
2. 近隣社会への貢献
3. 砥石製品の供給維持
4. 装置修理サービス維持と修理部品の供給維持

“お客様が現在の生産量を維持するために必要な製品／サービスを維持する”

情報公開への注力

- 「安心」に一番必要なものは「情報」
- 早期にホームページを開設
- CSR報告書で
積極的開示



事業継続ガイドライン

- 安心のための”共通のものさし”として使用したい。
 - ディスコ独自の評価基準ではなく客観的基準を。
- 自社の強み弱みが数値化できる。社内感覚と大筋で一致している。
- 現状では結果は未公表
- “ものさし”としての世間認知度は？

自己評価からの気づき

- 「Ⅰ. 方針・計画」より、
 - 想定シナリオにまだ甘いところがある。
- 「Ⅱ. 具体的施策」より、
 - 防災系の教育訓練は実施しているが、BCPに基づく事業継続の訓練が不足している。
- 「Ⅲ. 教育訓練」より、
 - 社員の家庭における防災対策徹底が課題である。
- 「Ⅴ. 防災に貢献する商品サービスの向上」より、
 - 防災に貢献する製品・サービスの向上はまだこれから。

BCP展開のポイント

- まず地震BCPに経営資源を集中し、徐々に範囲を拡大していく。
- 優先順位を明確にする。
- マネジメントシステム化して継続的に改善できる体制を作る。(PDCA)
- 災害に強い従業員体質をつくる。

- 非常時は「経営指揮者の確保」「情報通信の確保」「指揮命令システムの確保」に特化する。

災害に強い従業員体質をつくる

- 災害に強いヒトを育てる
 - 災害対策要員訓練
 - 防災セミナー
- 災害対策本部シミュレーション訓練
- 地震感度を高める
 - 全社員が危機を想像する
 - オリジナル地震小説”ディスコが揺れた日”



社内推進のためのポイント

- 経営陣の強いリーダーシップ

難しい点と悩み

- 生産現場操業度とBCP対策のバランス。
- サプライヤーチェーン対策の難しさ。
- とかく防災色が強くなりがち。
- 従業員の自宅対策にどこまで踏み込むか。
- 従業員の危機感度を確かめにくい。
- まだ起こっていない事を想像する難しさ。
- BCP対策の手応え感の作りかた

今後に向けて

- 対策状況を“見える化”し、社内共有して求心力を高める。
- サプライチェーンを強化し、関連取引先へも働きかけていきたい。

